カード版IGTの手続き

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 段階 | 行うこと | 備考 |
| 事前の準備 | <被験者側>  ・カードデッキの順番を確認する。A,B,C,Dそれぞれのデッキについて，カードを裏にして1が一番上に来るよう，番号順に100枚（1-40→1-40→1-20）並べる。  ・コインケースのレーン横に，額の目盛りを取り付ける。  ・コインケースの中に，緑のコインと赤のコインが80枚  (緑はバラで，赤は12×6セット+8枚あることを確認する。)  ・シート（ヨガマット的な素材？厚手ビニール？）の上に，A-Dのカードデッキを並べる。  ・シートの上に，コインケース4連の蓋を開けて並べる。  <検査者側>  ・検査者のケースに，以下のコインがあるか確認する。  →緑のコインが○○分，赤のコインが12×6+4×2  ・コイン換算表と筆記具を用意。 | ※例として写真を撮影する必要がある（8月26日にできるか？）  ・並んだ状態  ・めくっているところ  ？額の目盛りはどうするか  ？補充用コインを置いておくケースが必要  ?シートが必要？ |
| 被験者入室 | ・倫理的配慮の説明・同意書への記入 など施設ごとに必要な手続きを行う。 |  |
| IGTのインストラクション | ・「では，これからカードゲーム課題を始めます。」  ・検査者は，「今からゲーム課題のルールが書かれたものです。私が読み上げますので，聞いていてください。」と伝え，カード版インストラクションをそのまま読み上げる。  ・「何か質問はありますか？」と尋ねる。インストラクション内の内容であれば，かみ砕いて教示する。それ以上のことであれば，「ゲームを進めていくとわかります。」と伝える。 | ・口語で読み上げるのは，Bechara　2000を参考にしています。（？PC版では読み上げていないため，これを使わない）  ※インストラクションをカード版に変更する。 |
| IGT | ・「では，カードを選んでください。」  ・コイン換算表を見ながら，被験者が選んだカードに対応するコインを，被験者のコインケースに追加・削減する。  ・表にカード選択を記録する（例を参考に）。  ・途中で緑のコインがなくなったら~~「手持ち金がなくなったので，さらに20万円お貸しします。」と伝え~~，緑と赤のコインを両方80枚追加する。  ・100試行終えるまで続ける。 | ・被験者がカードを引くのか…？二枚引いてしまう，コインの操作の前にカードをすぐ引いてしまう可能性がある。ゲームの主導権を検査者が持つ意味も込めて，検査者がカードを引くほうがよいのか…？  （おそらくYes。束に触れてもらい，検査者がめくり，目の前に置いていくのがよいのでは。 ）  ・PC版では，何の通知もなく20万円が追加される→カード版でも通知しない。  ・試行数を把握できるような仕組みがコイン換算表に必要（Done）。 |
| IGT終了後 | ・「おめでとうございます。ゲームが終了しました。」  ・最終スコアから貸した金額を差し引いたものが＋であれば獲得額，－であれば損失額。計算した後，「借りを返した後のあなたの正味の獲得額/損失額は○○円です。←時間がかかりすぎるのではないか（省略？）  「実験へのご参加ありがとうございました。」 | ・「おめでとうございます」なのか…？→PC版のとおりにする |

※どのくらい時間がかかるか，この手順で本当によいか，やってみる必要がある。

※カードとPCの同等性を将来的に検討する必要がある。